

翌日にリーグ総合優勝が転がり込んだ不運な人。

昭和45年

奥村哲夫

通称「オーちゃん」。固いデフェンスで一世を風靡したオールラウンドプレーヤー。口数は少なく当時では珍しく「硬派」を貫いた人。大学1年で関西個人フルーレ優勝。7連覇フルーレの立役者。関西学生個人サーブルの部3位。

多田稔

通称「ミーちゃん」。華麗なステップでコテ突きの名人。

7連覇エペの立役者。出身校はオーちゃんと同じ平安高校だが、こちらは典型的な「軟派」。関西学生個人サーブルの部、準優勝、3位。

樋上義博

通称「ヒーヤン」。流れるような剣さばきは、みんなが惚れ惚れするサーブルマン。3人の中で一番礼儀作法に厳しい人で、下級生には煙たい存在。

しかし、マージャンには目がなく下級生をカモにしていた。関西学生個人サーブルの部優勝。

昭和46年

熊野則雄

通称「くま」。その太く短い足、長い手、長い首の持ち主。勝負根性は向かうところ敵無しが強豪フェンサー。我が部2番目のユニバシヤード出場選手。8連覇最後の主将。福井三羽ガラスの一人。関西学生個人エペの部2年連続優勝。フルーレの部3位。

岡山繁

通称「おかーま」。歴代一、二を争う名マネージャー。先輩達と対等に話が出る唯一の人物。サウスポーでサーブル三羽ガラスの小政。卒業後もOB会の会計として会費自動引き落としを導入した人。関西学生個人サーブルの部3位。

加藤康典

通称「パッセのペーチン」。学生の頃からパチンコはプロの腕前。同級生の小遣い稼ぎを受け持っていた。熱中しすぎてゼミの申し込み日を忘れるほど。現在OB会幹事長として活躍中。

萩原幸平

通称「こーへえ」。歴代OBの中でただ一人、間違っただ全日本学生エペを制覇した人。高校の時から理論派で、この人の話を聞くと強くなれそう。

松本幸一

通称「マツ」。「ガッツ」と「ハッター」で関西サーブルを制覇した人。レスラーからフェンサーへ、変わった経歴の持ち主でサーブルでしばかれるのが、とても快感だったとか。サーブル三羽ガラスの森の石松。関西学生個人サーブルの部2年連続優勝。

仲井修

通称はその体型から「だるま」。名付け親は廣岡部長。マージャンをさせると誰にも負けないすごい奴。サーブルのデフェンスは完璧でサーブル三羽ガラスの大政。その人こそ現監督です。

豊川清

通称「チンタ」。OBの中でも、まれにみる成績優秀な人物。この人がいたから全員が卒業できたようなもの。現在アメリカのロサンゼルスで活躍中。

昭和47年

滝ヶ花博通

通称「タキ」。いつもワンテンポ遅れる剣で相手を翻弄した人。福井三羽ガラスの一人。人付き合いが良すぎて、卒業もワンテンポずれてしまった。

現在、福井のホテルマンとして活躍中。

昭和48年

吉尾勇典

関西フェンシング界随一の酒豪。なにしろ酒を飲めば試合に勝つという程。そのわけか試合に強く我が部を引っ張ってゆく人。女には弱く、男には強い。
関西学生個人エペの部3位。

車 武 夫

ドンの愛称で広く知れわたる。面倒見のよい先輩。我が部の名物的存在。今のところブルーバードUで通学。よくタクシーがわりに使う。

松 田 敏 明

この人のフェンシングの華麗なこと！使うワザにウツトリ。いつも忙しい体である。司法試験目指してがんばっている。我が部初の司法官が出るかも。
関西学生個人サーブルの部優勝。

三 島 愛 子

ミス関大も卒業で、これからは、剣に変えてお茶か、お花か。男顔負けの力で突き進む。だれか、ウデずもうでも挑戦したら！

昭和 49 年

西 沢 丈 正

練習中は、「名鬼の西沢」と呼ばれる通り厳しいけれど、練習後は後輩の面倒をよくみてくれる、現在のフェンシング部の中心人物である。福井三羽ガラス最後の人。

鈴 木 潮

西沢さんを剛とすれば鈴木さんは我々後輩にとって柔的な存在であり、主務という激務を立派にやり遂げられた人である。

昭和 51 年

片 山 孔 男

高校時代は、陸上競技という根っからのスポーツマン。興に乗ると可成のユーモリスト。キャプテンとしてよく下級生の意見を聞き、結束の固いクラブ運営をされた。

新 居 隆

寡黙な努力家。それでいて話しやすい人柄。サーブルに特に実力を発揮され、副キャプテンとしてよくキャプテンを助けられた。

昭和 52 年

岡 崎 淳 子

高校時代のフェンシングの経験と、もの静かではあるが几帳面でしっかりとした性格を生かし、主務として活躍されました。

広 瀬 いずみ

楽道家でユーモアあふれる個性的な先輩。古美術研究会にも所属しておられるという情緒豊かな女性。副務として活躍されました。

昭和 53 年

寺 井 忠 行

「フェンシングは、6年やってはじめて体で理解できる」まさにその言葉を地でいった人である。力強いフェンシングで、クラブを二度優勝にもっていった功績は大きい。

西 脇 信 生

寺井先輩にいわせると、フェンシングをやるために生まれてきたような人。まさに天才である。最多勝利3回、インカレベスト8。etc

萩 原 千 也

気はやさしくて力持ち。もの静かで几帳面な性格から主務として活躍された。また、エペマンとしての活躍もみのがすことはできない。

昭和 54 年

垣 成 淳 二

主将としてチームを引っばってこられ、自らの努力によってフォームを完成させ、優秀な戦績の結果、東西対抗にも出場された。

玉井克司

諸先輩の中であって、泣く子も笑うユニークな存在であられ、後輩からは安心して接することが出来る先輩として慕われた温厚な方である。

宮本勉

普段はおとなしく無口な方であられた。酒の飲みっぷりの抜群な九州男児。フェンシングの基礎となるフォームの素晴らしさは天下一品。

松本辰也

いかなる時でも沈着冷静に行動された。主務、フェンサーとして頼りになるエペマンとして活躍された。又、いびきの音は雷のごとくすごいのも有名。

昭和55年

寺井一人

一高からのバリバリフェンサー。女の子の話をする目と目が輝き、フェンシングと同じくらいディスコでフィーバーするのが得意な先輩。最後まで毎日練習を見に来て下さいました。

早崎愛彦

フェンシングが好きなのか嫌いなのか、しっかりしているのかいないのか、分からない人。YMCAで陰の練習をされていた。名前だけイッチョマエに主務の先輩でした。本当に。

山本秀和

工学部でありながら、滋賀県から毎日通われた根性の人。お酒が入るとクラブに対する不満を一人でグチグチ言っておられました。文句を言いながらも何でもやり遂げるのです。

昭和56年

秋山美葉

やるべきことは必ずやりとげられた先輩。四年間男子に混じって、まじめに練習を続けられたことでは、部員はみんな頭があがりません。卒業が近づくと優しくな

られました。

昭和57年

加藤健司

二年間も主将として重責を立派に成し遂げられた。人一倍練習熱心で、レッスンのうまさは天下一品。非凡なジョークの天才でもあり、又、腐った靴下を集めるのが趣味とか。

山本和彦

試合の勝負強さ、執念は、後輩の尊敬の的であられた。又副将としても、卓越したものを発揮された。一見二枚目風ではあるが、中身はどっぷりの三枚目であるとか、ないとか。

森田淳一

主務の仕事を、こまめになんなく成し遂げられた。エペマンとして、本領を発揮された。又、順応性の速さは驚くほどで、東京へ遠征に行くやいなや、東京弁で話されるとか。

昭和58年

西川淳一

一高の時からフェンシングをされ、最もフェンシングに情熱のある先輩で、関大うどん4杯制覇等、数々の偉業?を成し遂げられた。また、クラブ一の“雀鬼”でもあった。

大森昭

フェンシングの虫でクラブ一研究熱心な先輩。常に戦術の研究を心がけてこられ、努力でインカレ出場を獲得された。一方、主務としていつも忙しそうにされていた。

昭和59年

山村宏明

主将として、又、関大フェンシング部の「切り込み隊長」として重責を見事に果

たされ、厳しさの中にも後輩への思いやりに満ちあふれた、頼りになる兄貴の様な方でした。

平井久嗣

学生生活最後のリーグ戦で、二部サーブル最多勝利賞を獲得されたかたわら、主務の仕事をこまめにこなされ、後輩一同学ぶところの多かった先輩でした。

上田勝啓

その性格は非常に几帳面で細かいことによく気がつかれ、壊れたリール・審判器・電剣・コード等、直せないものはないという、我がフェンシング部随一の技術者でした。

石崎裕嗣

男前、もの静かで穏やかな、後輩から慕われる方でした。ピストの上に立つと威圧感があり、リーグ戦エペではまさにポイントゲッターとして活躍された。

昭和60年

前口彰宏

この方は、高校時代から剣を持ち、見かけによらず強気のマイペースでパワフルなフェンシングを見せてくれました。そして遂に、4回生の秋にインカレ出場を成し遂げられた。自称「関大の星の王子様」。関西学生個人エペの部3位。

武田寛樹

この方は、主務としての大変な仕事をクラブ活動と共に全力を尽くしてやってこられた。またその反面、ギャブル好きという一面も持っておられた。

塚本英樹

この方は、しっかりとした自分の考えを持った、いろいろと頼りになる、大変マージャン好きな、そして大変ロマンチックな人でした。

比留間章元

この方のどこか天才的だったフェンシング。そして、それにも増して天才的な料

理の腕前。とても明るくユニークな先輩でした。

国定由美

この方は、大変まじめで人一倍練習熱心なスポーツウーマンでした。その豪快なアタックは、男子部員でさえ見習うべきものがありました。

谷口芳

この方は、面倒見がよく、大変親しみやすい愛嬌のある先輩でしたが、そのなかにもしっかりとしたものを持っておられた。こぼれ話などを書かせたら天下一品。

昭和61年

戸塚雅之

この方は、競技に対して研究熱心で、独自の理論と練習で、今年度のリーグ戦において、エースの役割を果たされました。

米正恵二

この方は、几帳面で主務の仕事をそつなくこなされ、またリーグ戦においては、エペの最多勝利賞を獲得されました。

平田雅章

この方は、体育会女子部員に人気があり、女子部員から「平田さんのフェンシング部」と言われるほどでした。

岡部利英

この方は、不言実行を絵に書いたような方で、試合における内に秘めたる闘志と、くそ度胸を忘れることはできないでしょう。

金志淳一

この方は、エペの主戦力として大活躍され、関カレでの団体2位に貢献されました。また、物を大事にされ、足の裏が見えるまで靴をはかれました。

吉岡由賀

この方は、女子のリーダーとして、クラブに憩いと安らぎを与える優しさと、体育会No.1の天賦のお色気をふりまいておられました。

昭和62年

吉村哲己

この方は、一目見ればすぐ体育会の人だとわかるような、いかにもスポーツマンという感じのする人でした。実際、何をやるにも豪快で、部員たちを圧倒しました。

上田義隆

主務としての仕事をそつなくこなすかわら、選手としてもリーグ戦で活躍されました。また、コンパの席では必ずマイクを握って、その渋い歌声を私たちに聞かせてくれました。

田中豊

この方は、後輩に大変優しく、また大変ユニークな方でした。そして、女性と食べ物には目がなく、そういう時の行動力に部員達は驚かされました。

昭和63年

舛永光生

この方の体力は測り知れなく、部員は驚くばかりでした。交友関係も広く、学内はもちろん他大学にも「関大舛永」は知られていました。また、料理が大変上手な方でした。

山本卓広

この方は大変ユニークなキャラクターの持ち主で、後輩から大変慕われていました。2度の大病を克服され4年間クラブを続けられたことは、頭が下がる思いです。

平成2年

上坂治

持ち前の勝負強さでチームを引っ張られ、またコンパでは独特の“つつこみで、獲

物以外の者に笑いと冷や汗を与えて下さいました。フルール最多勝利者賞獲得。

黒田洋

2年間、主務の重責を立派に果たされました。“質実剛健な方なのですが、惜しむらくはアルコール類が苦手ということで、コンパの席上では苦しそうな顔を見せておられました。

大森康弘

我が部のムードメーカーを務められ、その人柄が出ているエネルギッシュなフェンシング、カラオケではパワフルな「勝手にシンドバット」で皆を活気づけて下さいました。

大沢幸太

この方の身体の柔軟性は、体育会の中でも有数だと思われま。一方では部内一の大食漢にも拘わらず、部内で一番痩せているという理解しがたい一面も持っておられました。

宮西浩之

“沈着冷静という四文字が見事に当てはまる行動・フェンシングをされる方なのですが、“元おニャン子”関係に関してだけは別人になる意外な一面も持っておられました。

平成3年

市原淳

1年間クラブをしっかりと引っ張ってこられたこの方は、3種目共そつなくこなす試合では本当に頼もしい方です。しかし、お酒に大変強いので宴会では1回生の難敵でした。

小松憲明

何かと忙しい主務の仕事をぬけめなくこなすあたりは「さすが」というほかありません。大変おしゃれな方で、この方の愛車シビックにも合宿、試合の時にはお世話になりました。